

〈ラクシアーのお宝〉シリーズ 第一グループ編 第二話「水の行方」

・前書き

はい、皆さんどうもこんにちは！初めましての方初めまして！このキャンペーンの GM、ペンタコスと申します。

第 1 話のリプレイをまとめ、ニヤニヤしながら読んでいたら・・・「面白かったよ～」 「早く先読ませろや！」と身に余るお褒めの言葉を頂いたので、調子に乗った GM は二話のリプレイを上げたりしちゃいます(笑)

今回は一部 PC さんがご新規さんだったり、セッション中に背景探したりと色々挑戦しながらでしたが・・・やることの風呂敷を一気に広げて大丈夫か、俺？まあ、あれです。いつもの体当たり精神です。頑張ってください！！

・セッション開始前のあれこれ

GM: このシリーズの WIKI が出来ました～。あらすじとかのせთანで、良ければ見に来てくださいな

GM <http://w.livedoor.jp/trpgonline/d/%3c%a5%e9%a5%af%a5%b7%a5%a2%b0%ec%a4%ce%a4%aa%ca%f5%3e%a5%b7%a5%ea%a1%bc%a5%ba>

PL-S: こんにちは(*´ェ`)初心者なのでご迷惑おかけするかもしれませんが
(`・▽・`)/ヨロシクです><

今回は、レンドルの PL さんが諸事情によりお休みだったので、新にメンバーを募集しました。レンドルも戻ってきたら6人体勢・・・バランスどうしよっかな～(滝汗)

～～～～セッション前会話～～～～

ヴァン: キャラクターの画像探したけど、両手に斧もちの男でイメージ合うのがなかったです。
自分で描けたらいいのですがね～

GM: さて、皆はどんな感じに成長したのかな？先にキャラシをチェック

ヴァン: 前は一度も先制取れなかったから、スカウト上げましたw

GM: >ダヤン あ～、前はなぜか先制取れなかったですねえ・・・w

PL-S: あははwww

アル: 防御点上げのためエンハンサー取ってスキンとりました。これで防御点 8 か・・・

GM: やめて・・・攻撃通らへんやん・・・;;

ヴァン: また硬くなりましたね～

GM: この PT、前線の数が多い上に壁がめっちゃかたいガチンコなんですよ～ww

アル: 次かばう取りに行くか(ニヤ

ヴァン: もう一人も鉄壁タイプですからね。

GM: やめて～シャドウとリルドラの二枚壁なんてガンでしか抜ける気せんわ～www

ヴァン: じゃあ、LV5に生ったら必殺攻撃でもつけて好きなように暴れようw

GM:二枚の壁に回るフェンサー……今日の敵は美味くさばかれそう

こんな感じで成長報告も頂きつつ…ビビりまくる GM。いや、ホントもう物理戦で勝てる気がしない…ええいままよ！今回の敵はひと味違うぞ～？多分！

・朝の風景～新メンバーと不機嫌海賊！？

GM:よーし張り切って GM しちゃうゾー？そろそろ始めましょう

一同:はい

GM:さて、前回に引き続きご参加の方々、また、今回初の方、改めてご参加ありがとうございます！

セッションの前に、前回のあらすじをちらっと、そして新メンバーの自己紹介をしていただいてから、セッションに入りたいと思います。

【あらすじ】

突如として現れた巨大帆船「ショーウィ・ガレオン」。その船長にして「ヴェルダー」海賊団の団長、キャプテン・ペンティアー。冒険者達は彼の求める「ラクシアーのお宝」を、10億 G の報酬を条件に探すことを約束する。そんな中、キャプテンの銃を盗んだ少年「コウ」を探し、ダーレスブルグを奔走する冒険者達。彼を説得した後、妹の「マシロ」を助けたと同時に、お宝に近づくための情報を仕入れる。彼らの冒険は、まだ始まったばかりだ。

GM:さて、粗筋が終わった所で、準備おつけい？

リュウファン:>GM おけですー！

GM:では、リュウファンの自己紹介、お願いします！

リュウファン:「訳あって父と姉を探しながら旅をしている劉煌といいます。ふつつかものですがどうか皆さんよろしくおねがいします！」

GM:パチパチパチ～☆

ヴァン:「よろしくな！」

トウズ:8888888

アル:「よろしく」

アーシィ:「ああ、よろしく」

リュウファンはシャドウのフェンサーさん！これでこの PT、まさかの前衛四枚に…超攻撃型布陣ですね～。素晴らしきかなガチンコ系！

GM:では、そろそろ本編行きましょうかね～

前回のコウ少年の騒動から三日後、皆は相変わらずダーレスブルグの小さな冒険者の店「桜舞うそよ風亭」で思い思いの日常を送っています。

GM:あ、生活費とかは今のところ徴収しません。もうちょいお金に余裕が出てきたら考えますね～

アル:りょーかい

アーシィ:よかったあ・・・

ヴァン:それはどうも・・・

リュウファン:は～い

トゥーズ:たとえどれだけの量の飯を食べようとも(チラッ

アーシィ:そうだな！(ぐっ

GM:コトリさんの限りない優しさとキャプテンのパトロン力なのだ！

アーシィ:(プレイヤー発言) コトリさんとキャプテンマジ天使！

ヴァン:(プレイヤー発言) じゃあ、せめて、手伝いぐらいさせてもらおう・・・

でもここだけの話、生活費徴収のメリットがイマイチ分からない GM。お金減らしても GM も PL さんもあんまり得しないよねえ・・・フレーバー要素？

GM:では、最初は皆の日常から。皆は何をしているかな？時間は朝だね～

アーシィ:(プレイヤー発言) 食事でしょう！

アル:アルはカウンターでいつもどおり死んでる。誰か気付けでももってってやってくれ w

ヴァン:店の手伝い、薪わりなど～じっとしている感じでもないの。

トゥーズ:私は前回のお話でラクシアーのお宝について興味がわいたので文献とかあさってる。今日も部屋に本持ち込んでカンヅメ DA！

リュウファン:えっと・・・どうしましょうw

GM:ふむ・・・では、リュウファンはこの前回と導入の間でそよ風亭にやってきて、ペンティーアに見込まれて仲間に・・・みたいな導入で良いかな？出会いの RP とかします？

相談の結果。リュウファンは朝食を摂っている皆の所にやってくる。アーシィとは里の知り合い、アルとは旅の途中で会った事がある・・・という設定になりました！

GM:じゃあ、少ない方から処理するから、そよ風亭店内の RP は最後に回します

GM:では・・・まずはトゥーズの部屋に缶詰め RP でもしましょうか

トゥーズ:うむ、といってもおとぎ話扱いなので確な資料がない

つまり成果は 0！かわりにセージ Lv があがった！

GM:では、そんな缶詰めになってるトゥーズの所に、マシロちゃんがやってきますよ

マシロ:「うさぎのおにいちゃん・・・入るよ？」こんこん

トゥーズ:「フツフツフツ・・・む、なんだ開いているぞ？」

GM:マシロ「えっとね、コトリさんが、あんまり無理するなって・・・これ」コーヒーを持ってきてくれたよ

トゥーズ:「おお、すまない。・・・ふう」

GM:マシロ「それとね、せんちょーのお兄ちゃんが来てたよ？あたらしい・・・いらい？だって」

トゥーズ:「む、そうか。わざわざすまないな。・・・こうも情報が集まらないとなると調査はここまでにしておこう」

GM:マシロ「お勉強・・・がんばって」にこっ

トゥーズ:「ははは！知力 B は 4 あるがな！」

GM:忘れてたので補足説明:コウとマシロはガレオンで手伝いをしながら、そよ風亭の手伝いもしてるのだ!

トウズ:なるへそー

リュウファン:(プレイヤー発言) マシロたんかワイ(*´ェ`*)

GM:そうじゃろう...そうじゃろう...(ツヤツヤ

アーシィ:>トウズ (プレイヤー発言) 6ゾロふってもB2はどうすれば

GM:>アーシィ 種族の壁は高いのだ

トウズ:(プレイヤー発言) >アーシィ まず耳をつけましょう。そして毛を生やしましょう。

アル:(プレイヤー発言) 知力なんて捨てた

なんと!?タビットの知力の源はあの耳であったか?...てっきりモフモフするための要素とばかり

GM:では、場面を移してヴァンに行きましょう。

ヴァン:(プレイヤー発言) は〜い

GM:そよ風亭の店で薪を割っていると、コウがやってきます

コウ:「あ、ヴァンに一ちゃん!薪割りしてたのか〜」

ヴァン:コウ>「よう。どうした?」ちよっと手を止めてコウのほうを見ます

コウ:「おお〜見事にまっぶたつに...」

ヴァン:「じっとしてもしょうがないからな、働かざるものなんとやら...だ。」

GM:器用に薪を割るヴァンに、コウは興味津々

トウズ:(プレイヤー発言) 斧使いの両手利きで双撃を生かして片手づつバッサバッサと...

GM:器用やわあwww

リュウファン:(プレイヤー発言) すたいりっしゅあくしょん(*´ェ`*)

アーシィ:(プレイヤー発言) 器用すぎ...w

ヴァン:(プレイヤー発言) いや、薪割りのときは片手でしょw

コウ:「なあなあ、俺にもやらせてくれよ」

ヴァン:「ん?まあ使わせてやってもいいが...気をつけろよ?」

コウ:「やたっ!んじゃ...おりゃあっ!」

GM:斧を渡されたコウ君はやる気いっぱい。元気よく斧を振り下ろしました。

ヴァン:「それじゃダメだ、力まずにまっすぐ振り下ろせ。」

GM:ではヴァン。危機関知判定をお願いします。達成値7ね wwwwww

GM:【危険感知判定】(スカウト or レンジャーLv+知力B+2D)

リュウファン:(プレイヤー発言) (°д°)

ヴァン:<そうw

ヴァン:2D6+4 合計:12 <6,2>+4

GM:ほい。ではコウ君の割った薪が、ヴァン目掛けて飛んでいきます

ヒュン!

ヴァン:手で止められるかな?

GM:いいよん

コウ:「わわっ！ヴァンに一ちゃんごめん！大丈夫か？」

ヴァン:「コウ、気持ちがまっすぐ入っていないからそうなる。

斧は武器にもなる、生活ための道具にもなる、俺たち人間と同じなんだ。」

コウ:「う、うん……」

ヴァン:「俺なら大丈夫だが……斧のことも考えて振ってやってくれよ。じゃあ、もう一度やってみろ。」

コウ:「うん…分かった！……えいっ！」

GM:ヴァンの指導もあって、上手に割れましたね

ヴァン:「まあまあだ。じゃあ、割れた分を運んでくれ。」

コウ:「おっけい！ありがとーヴァンに一ちゃん！あ、そうだ」

船長さんが来てたよ？依頼だって」

ヴァン:「依頼？ やつとかよ～……。じゃあ、早いところ片付けて、行ってみるかな。」

コウ:「でも……なんか機嫌悪そうだったよ。船長さん」

ヴァン:「いつもそんな感じなんじゃないの？」笑いながら

GM:では、ヴァンの導入はこれくらいにしましょう。

ヴァン:どうもです

ヴァンに一ちゃん、ええ兄貴やの～。コウ君と一緒にだとホントの兄弟みたいですな。

GM:ではお待たせしました。場面変わってそよ風亭。まずは、コトリがいつもの処置をします。

コトリ:「アルさーん、いつものですよ」かけつけ三杯

アル:「三杯もいらん…… 一杯でいい……」

コトリ:「どうしよう……二杯余っちゃった……飲みます？」アーシィに差し出す

ヴァン:(プレイヤー発言) ほんとに3杯一度に持ってきたんだ……w

アーシィ:「朝から酒はどうかと思うが……余ったのなら。それと、これおかわり頼む」

コトリ:「あ、はい。ちょっと待っててくださいね！お詫びにおかわり代はサービスです」にこ

アーシィ:＞コトリ「ああ、ありがとう」

トウズ:(プレイヤー発言) …この宿のエンゲル係数はこの二人が大半を占めますな

リュウファン:(プレイヤー発言) アーシィは食いしん坊キャラとc(っ d)っφ メメモ...

アーシィ:(プレイヤー発言) 前回このおかず 10 皿とか言っていましたwww

リュウファン:(プレイヤー発言) wwwwww

GM:では、残り一杯のエールをもてあましてる所で、リュウファン登場といきましょう！

リュウファン:扉をギィとあけて酒場に入ってきたところできょろきょろとしています

コトリ:「あ、いらっしやいませ♪」

リュウファン:「あ、あの、ちょっと聞きたいことがあってきたんだけど…」

コトリ:「はい、なんのご用ですか？」笑顔で応対

リュウファン:「僕、これでも一応冒険者で、空に浮かぶ船の噂を聞いてルキスラから来たんだ。

そして来てみたら……ほ、ほんとにあってびっくりしたんだよ！それで、あの船のことになんだか興味がわいてきちゃって！」興奮気味に言います。

コトリ:「あ、ガレオンの噂を聞いたんですね。だったら丁度船長さんの知り合いがあそこにありますよ」

アーシィとアルを方に手を向ける

アーシィ:「ふう…朝の酒もなかなか…ん？」

アル:「あ～、クソ……」

アーシィ:「もしかして、リュウファンか…！？久しぶりだな！」

リュウファン:「あ、えーっと…確か、アーシィさん。。でしたよね！」必死に思いだそうとしてる

コトリ:「あら…？お知り合いですか？」

アル:「ああ？ 誰かいるのか… まあ、どうでもいいか」

リュウファン:「あ、それに…アルさん？？！ずいぶんとお久しぶりです！」

アル:後ろを見て「(リュウファンか…) よう…」そして、前見てカウンターに倒れる

アル:「コトリ、なんでもいい。軽食持ってきてくれ。一応腹になにか入れとく」

コトリ:「あ、はい！おかゆつくってきますね！」パタパタと駆けていく

リュウファン:「アルさんは相変わらずですね」笑いながら

アーシィ:「どうしたんだこんなところまで…二人は元気にしてるのか？」

リュウファン:「わからないです…もうお姉ちゃんが居なくなってから 2 年がたって…それからずっと一人だったの…」

アーシィ:「…いなくなった？そう…なのか…」(ショック

アル:「(居なくなったか… まあ、なんかあったんだろ。無理やり関わることじゃないな)」

リュウファン:「今は、お姉ちゃんを探す旅にでているんです。それでルキスラに寄った時、空飛ぶ船の噂を聞いてここにきたんです」

エスト:「お取り込み中、失礼致します」エストが皆の前に飛んできますよ

リュウファン:「う、うわっ！鳥！？」ビククリ

アーシィ:「エストか、あの船長の依頼か？」

エスト:「お初にお目に掛かります。私、エストというファミリアです。以後、お見知りおきを」

アーシィ:「エストは、あの船の所有者の鳥なんだ」

リュウファン:「す、すごい！鳥が喋って…いや、え…よろしく！？」少し混乱している

エスト:「ゆっくりお話と行きたいのですが…そろそろ依頼の話をしないと…」

アーシィ:「急ぎのようだな…頼む」

コトリ:「アルさん、おかゆお待たせ……ひっ」悪寒が走る。

GM:さて、この店にいるアーシィ、リュウファン、アルは、危機関知お願いします。達成値6

GM:【危険感知判定】(スカウト or レンジャーLv+知力B+2D)

アーシィ:(プレイヤー発言) はい？

アーシィ:2D6+4 合計:11 <1,6>+4

リュウファン:2D6+3 合計:12 <3,6>+3

アル:2D6+3 合計:13 <5,6>+2

GM:ほい、では三人とも、そよ風亭にダダ漏れる危険なオーラに気がつきます

アル:(…… 面倒な雰囲気になってるな……)

アーシィ:「なんだ…この感じは…」

リュウファン:「なんだか、すごくイヤなかんじがする…」少しおびえている

エスト:「そろそろうちのマスターの不機嫌オーラを止めないと…お店の経営に関わるかと」ため息

アーシィ:「不機嫌・・・？」

GM:アーシィが店内を探すと、店の奥でムス一としてる海賊が目に入った。ってとこで導入おしまい。

う～んこの PL の危機感知判定を宣言するときのリアクション・・・やめられません(涎)まあ今の所はそうそう減多なペナルティ課さないんですけどね～。さてさて、キャプテンがご機嫌斜めな理由はなんなんでしょう？

・目指すは湖、オズの里！

GM:ではヴァンとトゥーズも合流して、作戦会議と参りましょう。

トゥーズ:ほーい、では部屋で灯りがわりにしてた光の妖精を宝石に戻しながら降りてきます

ヴァン:「コトリちゃん飯頼む～」と言って入ってきます。

リュウファン:少し離れたばしょでみんなの様子をみてるよ

アーシィ:「どうしたのだ、ペンティーア殿、いつになく機嫌が悪そうだが・・・」

ペンティーア:「(むす～～～っ)・・・」

アル:「せめてその気配はしまえ、そんなんじゃ会議も出来やしない」

コトリ:「あらあら・・・まだルキスラの事で怒ってるんでしょうか・・・」ヴァンとアルに食事を出しながら

アーシィ:「ルキスラ・・・？そこでなにかあったのか・・・？コトリ殿」

ヴァン:「ルキスラ？なんかあったの？」

コトリ:「ええとですね・・・」コトリは困ったように、昨日あった出来事を語ります。

GM:昨日、キャプテン・ペンティーアは、突如としてダーレスブルグのマグダレーナに呼び出しを受けた。

「ルキスラのユリウス皇帝が、事情と目的を報告する様に求めているので行ってこい」との事である。

コトリ:「それから・・・ずっとあの調子で」

ヴァン:「へ～それはまた・・・。」(まあ、自分勝手に跳ね回りすぎなんだよな、キャプテンは。)

アーシィ:「・・・つまり、報告に行きたくないとか・・・」

ヴァン:「まあ、俺には関係ない。ちょっとだけエール飲もうかな。」

リュウファン:(ダーレスブルグの立場上、ユリウス皇帝の命令に背くとややこしくなりそうだもんね・・・)

アル:「行ってこい、俺が言うのはこれだけだ。」

GM:ペンティーア「まったく、何で俺があのはな垂れ小僧のいうことなんか聴かなきゃならねえんだ・・・」

コトリが持てあましてたエールかっぱらってラツパ飲み

コトリ:「ああ、余ってたの船長さんが飲んじやった・・・すぐ持ってきますね！」

アル:「ガキでも小僧でも権力者は権力者だ。 一々そんなんでもその気配出されてたらたまらん。

さっさと報告行け」

ヴァン:>アーシィ「それからアーシア、食った分は動かないと太るぞ。」

アーシィ:「・・・」:(無言で腰を上げる)

リュウファン:(なんか別の意味でビリビリしてるよ～・・・)

ヴァン:(なんか、こっちのオーラも悪くなっちゃった・・・)

トゥーズ:危機感知には自信があるから陰悪ムードでもへっちゃらだぜ！

トゥーズ:「それで、依頼というのはどうしたのだ…まさかとは思うが」

GM: トウズに振られて、キャプテンは重い腰を上げます。

ペンティーア: 「ま、仕方ない…あいつの顔もしばらく見てないし、どうせお宝探しのついでにもなるし…てなわけでお前等、仕事だ」

アーシィ: 「わかった、政治だの皇帝だのというのはわからないが…依頼なら受けよう
体うごかさなきゃいけないしな」(ヴァンを見る)

ヴァン: 「そうそう、せっかく美人なんだから、気をつけたほうがいい。」チョイフォロー

アーシィ: 「美人…だなんて…///そんなこと言っても…///なにも…///」(今にも爆発しそう)

ヴァン: 「さて、ご馳走様。やっと次の仕事が決まったかな？」

アル: 「仕事な… わかった」

アーシィはおだてに弱いツンデレちゃん…と(メモ)

【依頼内容】…ルマ湖群のエルフの里「オズ」にて宝玉に関する情報を入手せよ(報酬 1200G/人)

トウズ: 「ルマ湖群…」場所は知っていいんですかね？

GM: 見識ふるかい？達成値6だよん

GM: 【見識判定】(セージ or バード or アルケミスト Lv+知力B+2D)

トウズ: 2D6+6 合計: 16 <6,4>+6

リュウファン: (プレイヤー発言) たかあw

GM: うむ、それならオズの位置も知ってて良いね

ルマ湖群は、オレンジの円で囲ってある所。オズは湖群の中心から北東よりの集落だよ。

ルマ湖群についての詳細は、ルルブ I 改訂版 326 ページをご参照下さい～

トウズ: 「ふむ、あそこか」と納得して皆に場所を教える

ヴァン: 「なるほど…しかし遠いな。」

ペンティーア: 「心配すんな、ルキスラに行くついでだって言っただろ？近くまでガレオンで送ってやるよ」

アル: 「行く準備はしておくか…」

リュウファン: 「あ、あの…水を差すようで悪いのですが、今回の依頼に僕も同行してよろしいでしょうか？」
おどおどしながら

ペンティーア: 「お？お前もお宝に興味ありか？」機嫌良くのってくる

リュウファン: 「久しぶりにアーシィさんとアルさんとも会えましたし、一緒におしごとしたいな…なんておもって」

トウズ: 「む、知り合いなのか？」

アーシィ: 「いやいや…///そんなこと…///私が美人なんて…///」もじもじ

トウズ: (アーシィに聞いてみたが返答が無理そうなので) >アル 「…知り合いなのだな？」

アル: 「知り合いだ。それがどうした？」

GM: アーシィが可愛い ww

リュウファン: ww

ヴァン:>リュウファン「ああ、アーシアたちの知り合いだったのか、よろしく。」
リュウファン:「よ、よろしくおねがいします！斧のお兄さんとうさぎさん！」
トゥーズ:>リュウファン「ああ、トゥーズだ。よろしく頼むぞ。」
ヴァン:>リュウファン「よろしく、若い方がいい面構えだ。」
アーシィ:「いやいや・・・///そんなこと・・・///私が美人なんて・・・///」もじもじ
アル:「おい、誰かアーシィ止めろ。見てて気持ち悪い」
エスト:「では失礼」サニティ詠唱
GM:2D6+11 合計:14 <2,1>+11
GM:>アーシィ 一応抵抗してね ww
アーシィ:いいんですか・・・？
アーシィ:2D6+8 合計:14 <5,1>+8
GM:同値抵抗・・・
アーシィ:「・・・はああ・・・///」(夢ごちもじもじ
ヴァン:「おーい、トイレは我慢しないほうがいいぞって。」肩をぽんと
アル:「はあ・・・」
エスト:「すいません・・・はあ」
アル:アーシィを一発殴っていいですか？
GM:ノダメならいいよん
アル:「このバカシャドウ(ツゴ」
リュウファン:(い、いろんないみで怖いよ～～)
ヴァン:「ああ、大丈夫、この人たちは丈夫だから。」
アーシィ:「・・・はっ！？私は・・・？すまなかったな・・・恥ずかしい・・・所を・・・」
アル:「・・・ なあエスト、自分で言うのもなんだがリルドラが一番まともってどう思う？」
エスト:「大丈夫かと・・・マスターよりまともなファミリアもありますから・・・はあ」
ヴァン:>アル「まあ、みんな自分のことはまともだと思い込んでいるもんだよ、気にせずいこう。」
アーシィ:(プレイヤー発言) まったく、GM の出目が悪いせいで、こんなことに・・・(おい

GM のせいにされた・・・泣きたい(笑)

ペンティーア:「はっはっは。お前等見てたら機嫌直ったぜ！ようし野郎共！早速オズまで行ってこい！
そこのシャドウの坊主！お前も一緒に来い！」
リュウファン:「ほ、ほんとうですか！？ありがとうございます！空飛ぶ船にのれるんだ！」
アーシィ:「よかったな、リュウ」
リュウファン:「うん！ありがとう！」きらきらしながら
ヴァン:「お宝を見つけたら、10億 G もらえるんだぜ？」
リュウファン:「じゅ、じゅうおうくうう！？そんなにすごい依頼だったんですか・・・！？」
ヴァン:「まあ、何時になるかはわからないけどな。」

何時になるかは冒険が知っている・・・さてさて依頼開始～！！

・慌てん坊のお花畑エルフ

GM:では、依頼を受けるという事で、準備フェイズと参りましょう。お買い物あったら言ってね。

アル:80 で何を買えと www まあ、保存食ぐらい買えそうだけど ww

アーシィ:38 でなにを買えと・・・w

トゥーズ:前回からの報告なんですがアウェイクンポーション 2 つ買いました。あと何も手にないのがさびしいのでランタンと油を。合計 300G の買い物です

リュウファン:私は救命草 5 個かっておきますね！

ヴァン:救命草 5 こ、魔香草2個買います～

う～ん、今度から前金も導入した方がいいかもね。しかしこの PT はその手の交渉してこないね～。信頼されてるようで嬉しいですが♪

GM:では、ちょいととぼして、ルマ湖群までついた事にしましょう。

キャプテンは皆を下ろすと「がんばれよ～」と言い、ルキスラに向かっていきました。

アーシィ:「ああ、そちらも」

ヴァン:「さあ、邪魔者はいなくなった、気軽に行こう♪」

アル:「負担が少しなくなったが良心も減ったな」

ヴァン:「しかたないだろ、キャプテンのお守りがいるんだから。」

GM:アルにとってエストは心のオアシスなんだなあ・・・;;

アーシィ:「なに・・・いざとなれば私もいる、安心しろ」

アル:アーシィを見て「はあ・・・」っとため息をつく

アーシィ:「なっ・・・さっきはちょっと・・・舞い上がってたただけだー！ ///」顔真っ赤

トゥーズ:「まあそうやってやるな。 みな、目的地はこっちだ」

GM:ではではトゥーズの指揮で歩き出した皆。聞き耳判定してくださいな。達成値9

GM:【聞き耳判定】(スカウト or レンジャーLv+知力B+2D)

一同:(ころころりん・・・)ヴァン、トゥーズが成功！

アーシィ:2D6+4 合計:6 <1,1>+4

GM:照れながらごじってーん

アーシィ:(プレイヤー発言) 空気読みすぎwww

トゥーズ:(プレイヤー発言) 取り繕うのに必死で聞いてませんでしたって感じですね！

ヴァン:>ヴァン 「何か聞こえる・・・アーシア、静かにしてくれ！」

GM:ではでは、ヴァンとトゥーズは「はわわわわ～！」という叫び声を耳にしますよ

ヴァン:「なんだ？人の叫び声みたいだ！・・・ちょっと間の抜けた感じだったが」

トゥーズ:「方角はあちらだろう…行ってみるか？」

ヴァン:「行こう」取りあえず、声のしたほうへ向かってみます。

アーシィ:「よし、行こう・・・」

GM:ほい、では皆は魚のような身体をした数体の蜚族と、襲われているエルフを発見するよ！

エルフは皆の方に全力疾走で走ってくる！

ヴァン: エルフ>「大丈夫か？」

エルフ: 「た、た、助けてくださいい〜〜」ヴァンにしがみつく

リュウファン: 「ケガをしてるの？」

GM: エルフは泥だらけだけど怪我はないね

アーシィ: 「大丈夫か！下がっている！」蜚族に向かって駆け出す

ヴァン: 「ええい！助けるからくっつくな！邪魔だ。」両手にハンドアックスを構えます。

エルフ: 「は、はいい…」おずおずと皆の後ろに隠れます

アル: 「蜚族か、準備運動だな」

GM: では、皆が戦闘態勢に入ると、蜚族達もこっちを向きます。

…汎用蜚族語、分かる人〜？

トゥーズ: >GM 読める！書ける！

GM: ふむ、ではトゥーズには蜚族達の言葉がわかるよ！

蜚族: 「ゲル！ゲルゲル！（なんだ！邪魔するな）」

蜚族 B: 「ゲルゲル！（構わん！やっちまえ！）」

トゥーズ: >GM 「ドム！ドムドム！（来るなら来い！）」と言って前衛人の影へ…

アル: 「俺を盾にするな」

トゥーズ: 「そういわないでください！それより来ますよ！」

アル: 「たく、ちゃんと支援してくれよ」

GM: てなわけで戦闘開始〜！準備するよ！

GM: 敵の数は四匹、戦闘は簡易。足場は普通なのでペナ無しですね！

GM: では魔物知識判定！達成値は 10/13

GM: 【魔物知識判定】(セージ or ライダーLv+知力B+2D)

一同: (ころころ…)トゥーズが正体のみ看破！

GM: ほい、では敵はサハギンと分かりました！ルルブⅡの 226 ページ！

トゥーズ: (プレイヤー発言) 土属性攻撃とか使えないから関係ないや！

アル: (プレイヤー発言) レベルを上げて物理で殴れば倒せる相手ですね

ヴァン: (プレイヤー発言) 肩慣らしですね

GM: ではではさくっと先制とってみよう！こっちは10！

一同: (ころりん)先制奪取！！

GM: 祝！初先制奪取〜パチパチパチ〜☆

アーシィ: (プレイヤー発言) 初先制だったり…w

トゥーズ: >GM やめたげてよう！

GM: ではゲルゲル言ってる野郎共を開きにしちゃおう！皆からだよん

アル: これもう消化試合になる気が…

アーシィ: (プレイヤー発言) 一対一で勝てるかな…

アル: アルから… 全力攻撃で叩く

GM: 回避10！当ててみよー！

アル: 2D6+3 合計: 7 <1,3>+3

GM: よけた！

ヴァン:次行くね B に両手利きで攻撃～

ヴァン:(ころころ…両方命中！)

ヴァン:R12C10+6 合計:7 <[1_2]> = <1>+6

ヴァン:R12C10+6 合計:8 <[4_1]> = <2>+6

GM:ほい、では防護点引いて11点ダメージ

ヴァン:(プレイヤー発言) 軽いな～

GM:お次どうぞ～

リュウファン:(プレイヤー発言) でわ C に両手利きで攻撃です！

リュウファン:(ころころ…両方外れ…)

GM:ひらりっ！

リュウファン:…(´;エ;`)

アーシィ:…ドンマイです！

GM:ではアーシィどうぞ

アーシィ:補助動作でビートルスキン、主動作で D に攻撃！

アーシィ:2D6+5 合計:13 <2,6>+5

アーシィ:R21C11+5 合計:11 <[3_4]> = <6>+5

GM:ほい！9点もらった！

アーシィ:(プレイヤー発言) かばう忘れてたな…

GM:残るはトウーズ！

トウーズ:B に追い打ちを仕掛けます。補助はなしで主動作でファイアボルト

トウーズ:2D6+6 合計:9 <2,1>+6

GM:抵抗！

トウーズ:でもダメージはあるぞおおお！

トウーズ:R10C13+6 合計:13 <[6_6]> = <7>+6

GM:熱い www7点ダメージ

ヴァン:(プレイヤー発言) こっちで6ゾロか

リュウファン:(プレイヤー発言) す、すごい…w

トウーズ:抜けば回ったのに……おしまいです

GM:サハギン B「ゲルゲル(あぢぢぢ…あづいゲル！)」

GM:サハギン A「ゲル！(しっかりするゲル！さっさと作戦をすすめるゲル！)」

トウーズ:「…作戦だとう？」

GM:ではこちらの番！

GM:サハギン A がヴァンに攻撃！命中10だよん

GM:【回避力判定】(回避力+2D)

※回避力=ファイター・グラップラー・フェンサーいずれかの Lv+敏捷度B

ヴァン:2D6+5 合計:17 <6,6>+5

トウーズ:わーお

ヴァン:絶対回避！

GM:あらん;;余裕でひらり

ヴァン:「止まって見えるぞ、鱗やろう。」

GM:ではBはリュウファンに攻撃!

リュウファン:2D6+6 合計:14 <5,3>+6

リュウファン:「僕に当てようなんて…ムダムダムダ!」

ヴァン:(プレイヤー発言) あたらない前衛と、通らない前衛が2人ずつ。

アーシィ:「ほう…強くなったんだな、リュウ」

トウズ:「(うむ、いきなり気迫が変わったな…)」

リュウファン:「お姉ちゃんがいなくても…戦えるように、がんばったんだ!」

GM:(…もうちょい強い敵の方がいいかなあ?)Cはアーシィに!

アーシィ:2D6+4 合計:8 <2,2>+4

GM:わーい当たった!ダメいっくぞ〜

GM:2D6+2 合計:6 <2,2>+2

アーシィ:0点です

GM:…雑魚キャラなんて、雑魚キャラなんてっ…;;ええい!Dもアーシィにいくよん!

アーシィ:2D6+4 合計:8 <3,1>+4

ヴァン:(プレイヤー発言) なぜか当たるな…w

GM:ダメージっ!

GM:2D6+2 合計:8 <3,3>+2

GM:やた一つ!通った!

ヴァン:え?通るかな?

アーシィ:いいえ、0点です

リュウファン:www

GM:(;;)おろろん

アーシィ:「それが攻撃か?」

GM:サハギン「げる!?(か、硬い!硬すぎゲル!」

この時、ビートルスキンの効果をすっかり失念していたGM(笑)…ホント、このPTに物理戦は辛い…

GM:では皆の手番だよん!

ヴァン:(プレイヤー発言) いいかな?対象はBです

GM:ほいほい!

ヴァン:2D6+4 合計:13 <6,3>+4

ヴァン:R12C10+6 合計:8 <[1_3]>=<2>+6

GM:ほい!すっぱり斬られて撃沈ゲル〜!

ヴァン:もう片手はAに

ヴァン:2D6+4 合計:16 <6,6>+4

ヴァン:R12C10+6 合計:8 <[4_1]>=<2>+6

ヴァン:(プレイヤー発言) でもダメージ控えめ

GM:…双撃とか、アツナア…6点ダメージ。ほい!お次どぞ

ヴァン:(プレイヤー発言) このキャンペーンで、やっと始めて敵を倒したのは内緒w

GM:>ヴァン おめでとう...おめでとう...

リュウファン:でわいきますね〜! Cに両手利きで攻撃!

リュウファン:(ころころ...両方回避)

GM:Cさん「ゲルゲルゲル〜!」手をぱんぱん

リュウファン:>C「(#^ω^)^ビキビキ」

ヴァン:(プレイヤー発言) >リュウファン 大丈夫、きっと後で波が来る!

アーシィ:>リュウファン「熱くなりすぎるなよ!」

トウーズ:>アーシィ さっきお熱くなっ...ナンデモアリマセン!

GM:さてお次は?

アル:Cに全力攻撃〜

アル:2D6+3 合計:8 <2,3>+3

アル:命中低くて泣きそうw

ヴァン:>アル「飛ぼう!」

アル:(プレイヤー発言) 素で忘れてたw

GM:Cさん、こないだのケンタの血を継ぐ者か...

トウーズ:Dを焼却! ファイアボルトで

トウーズ:2D6+6 合計:15 <5,4>+6

トウーズ:R10C10+6 合計:8 <[2_3]> = <2>+6

トウーズ:流石にさっきみたいにはいかない!

GM:ほい、8点もらいます

アーシィ:では、Dを攻撃ですね

アーシィ:2D6+5 合計:17 <6,6>+5

アーシィ:R21C11+5 合計:11 <[6_1]> = <6>+5

GM:避けられないさ〜www

アーシィ:「これで...はあっ!」

GM:D「げるううう...」ぱたっ

リュウファン:「アーシィ姉ちゃん、すごい...!」

ヴァン:「うむ、斧最強。」

GM:これは不利を悟るなあ...ACともに乱戦エリアから離脱を宣言!

次ターンで倒さないと逃げちゃうぞ!

トウーズ:「まずいですね、さっき計画とかどうとか言っていました。一応全員気絶に追い込みたいです!」

GM:皆のターンだよん

リュウファン:いきます(^・ω・!)

リュウファン:Cに攻撃!

ヴァン:(プレイヤー発言) 離脱するには回避-4で避けきらないといけなのだけど...w

リュウファン:2D6+4 合計:8 <2,2>+4

GM:命中 www(回避ペナ、忘れてないよ。ホントだよ?)

リュウファン:R10C9+5 合計:11 <[4_5] [2_2]> = <5,1>+5

リュウファン:2D6+4 合計:11 <2,5>+4

リュウファン:R10C9+5 合計:9 <[5_3]> = <4>+5

GM:はい、7点ダメ！Dさん残り4でぴよぴよ

トゥーズ:Aにスネア撃ってみましょうか？

GM:鬼畜う;;

トゥーズ:2D6+6 合計:11 <4,1>+6

トゥーズ:スッテンころりん！

GM:Aさん「げぶっ！」にけっ。転倒に付き更に回避-2。こらあたるわ～

ヴァン:(プレイヤー発言) ご愁傷様です・・・

アル:転んだところで補助で飛んで全力

アル:2D6+4 合計:11 <2,5>+4

アル:R27C10+10 合計:25 <[4_6] [2_4]> = <9, 6>+10

アーシィ:(プレイヤー発言) また、悪鬼羅刹だよ・・・w

アル:25で防御引いて

ヴァン:(プレイヤー発言) >GM 尋問するなら、生死判定しておいてもらうかな～と・・・むりか？

アル:生きてるかな w

ヴァン:まあ、もう一匹いるw

GM:2D6+6 合計:13 <4,3>+6 うん、Aさん気絶。残るはD！

アーシィ:まだ、私の番がある、Dに！

アーシィ:2D6+5 合計:11 <3,3>+5

アーシィ:R21C11+5 合計:11 <[4_4]> = <6>+5

GM:げきちーん！

アーシィ:「ふう、終わったか」

GM:サハギン達をやっつけた！

GM:ではでは剥ぎ取りタイム！

アーシィ:2D6 合計:12 <6,6>

ヴァン:2D6 合計:2 <1,1>

ヴァン:(プレイヤー発言) こんなところで・・・

GM:この天と地の差は・・・

リュウファン:2D6 合計:9 <4,5>

アル:2D6 合計:5 <1,4>

GM:ほい、サンクスです。報酬は共有メモに書いておきます

トゥーズ:すみません、気絶したAを冒険者セットのロープで縛っておらはけやー ってやると何か聞けませんか？

GM:ん、したらサハギンは吐きますね

サハギンA:「許してくれゲル！俺達はただ、オズの水路に毒を撒けて言われただけゲル！」

ヴァン:「それは、許されないだろう！！」

リュウファン:「なんで、そんなことするの・・・？」

トゥーズ:「なん・・・だと・・・」

アーシィ:「貴様、そんなことを！」

A:「だって、そうしないと俺達も殺されるゲル！ボリヨックには逆らえないゲル！」

ヴァン:(プレイヤー発言) あ、自分いは何言っているのかわからないんだった・・・w

GM:トゥーズが同時通訳しているってことで

ヴァン:「また、ボリヨクか・・・何者なんだ。」

リュウファン:「また??」

アーシィ:「ああ、それはな・・・」説明中

ヴァン:「どうも、組織立った敵のようだ。」

リュウファン:「そうなんですか・・それはやっかいですね・・」

ヴァン:「けど、俺たちの探しているものを持ってきてくれる親切な敵でもある。」

アル:「……………」(うっわ・・・めんどくに絶対巻き込まれた) 少し顔に出てる

トゥーズ:とりあえず、理由だ理由を聞く！

GM:ギルマンの話の聞いていると、先程のエルフが声を掛けてきます

エルフ:「そのギルマン達は、オズの里の儀式を邪魔しようとしてるんだと思います」

ヴァン:「その儀式って言うのはなんなんだ？」

エルフ:「オズの里では、50年に一度“水星雲の儀式”が行われるんです。それが、もうすぐなのですが・・・」

GM:ほい、ここで見識振りたいひとはどうぞ！達成値10

一同:(ころころ・・・)成功！

【水星雲の儀式】

オズの里で 50 年に一度行われる儀式。「星雲石」を祭壇にはめ込み、月明かりと乱反射により洞窟内に星雲の様なきらめきを映し出し、村の反映を祝う祭典。

ヴァン:「ひょっとしてだが・・・変な玉みたいなものも使われていないか？」

エルフ:「はい。星雲石という、石を使いますが・・・貴方たちは？」

ヴァン:「星雲石・・・どんなものなんだろう？」

ヴァン:>GM (プレイヤー発言) 前に手に入れた宝玉はペンティーアが持っているんですよね？

GM:ですね

トゥーズ:「シーン様あたりのご加護でもありそうな感じですね」

アーシィ:「ああ、紹介がおくれたな。私達は冒険者で、今は依頼を受けているんだ。」

エルフ:「依頼の冒険者？でもオズでは依頼を出していないじゃ・・・？」

ヴァン:「探し物があってここに来たんだ、このぐらいの・・・宝玉なんだが。」大きさ身振りで

エルフ:「宝玉って・・・あーっ！」いきなり指さす！

エルフ:「貴方たち、もしかしてキャプテンのお知り合いデスかあ？」

アル:←相手面倒だからPTの最後尾にいる

ヴァン:「ああ、ペンティーアのこと、知っているのか？」

エルフ:「あ、申し遅れましたね」こほんと咳払いをひとつ。

ルナ:「私、ルナ・ユキハって言います。ヴェルダー海賊団の、フェアリーティマーなんですよ？」えっへん

ヴァン:「なに?! オズのエルフじゃなかったのか?」

リュウファン:「僕も、てっきりオズからきたのかとおもったよ〜」

ヴァン:「ヴァンだ、よろしく頼む…。」初めて船員見たな…

アーシィ:「ヴェルダー海賊団は二人だけではなかったのか…」

ルナ:「え? まあ、今はオズで厄介になってますが…」きょとん

ルナ:「5年くらい前でしょうか…? 一度ここに来たときに…、“ここを調べておけ”って、キャプテンに置いて行かれちゃって」ばつが悪そうに笑う

リュウファン:「5年も、ずっと…?」びっくりしてる

アーシィ:「ペンティーア殿…」(ため息

ヴァン:「あんた、多分忘れられている…。ぞ。」(この海賊団、自由すぎないか…)

トウーズ:「まあそういうわけで私たちもその船長からの依頼で来ているというわけだ」

ルナ:「あ、皆さんキャプテンの依頼で? そういう事でしたかあ…」ほえ…と関心

ヴァン:「ったく。先に誰か遣わしているなら、一言言ってくればいいのにな…」

アル: 小声で「俺は海賊団では今のところエスト以外とはまともに会話しないと決めた。 今決めた」

ヴァン:「俺だってそうだ…と思うぞ。」小声で

ヴァン:「で、ルナ。宝玉については何か分かったのか?」

ルナ:「あ、それなんですけどね。どうも、エルフの宝玉なんです、さっきの儀式に関係しているみたいなんです」

トウーズ:「なるほどな、ならば儀式を成功させる必要がありますそうだ」

ルナ:「5年かけて、やっとつきとめましたよ! えっへん!」

ヴァン:「星雲石って言うのは、見たことあるのか?」

ルナ:「星雲石は、里の奥にある洞窟に保管されてるそうです。ただ…」

ヴァン:「ただ?」

ルナ:「その洞窟から、先程ギルマン達が言っていた毒が流れ込んできてるんです…」

ヴァン:「ちょっとまて、オズのエルフたちに知らせるほうが先だろう。」

アーシィ:「奴等、なんということをし!」

ルナ:「私、それを止めようとして、蛮族達と闘ってたんですが…」

妖精と契約した宝石、部屋に忘れてきちゃいまして」てへっ

トウーズ:「そうか(流す構え」

リュウファン:「てへって…命とりだよ!!」ビシッ

ヴァン:「そうだったのか、まあ気にするな。オズの里へ急ごう。」

アーシィ:「この船長にこの船員あり…か…」

ヴァン:「(おれたち、大丈夫かな…迎えって、忘れず来るかなあ…?)」

リュウファン:「(5年もノコされたらどうしよう…)」

ヴァン:「ダメだ、この海賊団は何かダメだ…」小声で

アル:「迎えが来なかったら俺は自力で宿まで帰るがどうする?」

ヴァン:「うう…女性を連れて帰ってくれ。俺は自力でなんとかする。」

アーシィ:「早く解決して、宝玉も入手して帰ろうか…」

ルナ:「では、里に行きましょう! れっつらごーごーです〜♪」上機嫌で歩き出します

トウズ：「ふむ、とにかく毒をどうにかせんと洞窟自体近づけなさそうだな…なにより川に毒を流すなど自然に対しての冒涇だ」歩き出しながらブツブツ

アーシィ：「はいはい、わかった」ついていく

というわけでヴェルダー海賊団初の団員！通称“お花畑エルフ”のルナさん登場！このハイテンション娘を前にした皆のリアクション…最高だ(笑)

・オズの里にて

GM：里に着いた皆は、長様から話を聞く事に

ヴァン：(プレイヤー発言) 自分はエルフたちに毒の事を知らせて回ります～長老は任せた。

長：「おおお…皆さんが来てくださったのですか…ありがたやありがたや…」ぺこぺこ頭を下げます

トウズ：かくしかでサハギンとであったエルフの内容を伝えます！

長：「ほうほう…それはそれは。では、そんな皆様をお願いをしたい」

リュウファン：「お願いってなあに？村長」

長：「儀式には、清らかな水を星雲石に捧げなければならないんですじゃ。皆様には、その毒の原因となっている蛮族を止めていただきたい」

アーシィ：「ああ、そんなことをする蛮族は必ず止めてやる。やるぞ」

長：「おお、ありがたい事ですじゃ…」

リュウファン：「どこに、どんな蛮族が居るかわかりますか？」

長：「洞窟にいるのは間違いないじゃろうが…どんなやつかはわからんいう」

リュウファン：「洞窟内部の地図や情報はなにかありませんか？」

長：「ふむ、洞窟は少し入り組んではおるが…迷いはしない程度じゃ。ですが、ちと暗いのですのう…」

リュウファン：「暗いところは僕と**アーシィ**姉は問題ないね！」

アーシィ：「しかし、ほかの者がな…」

アル：「俺はわかっての通り見えないからな」

トウズ：「まあ私にはこれもある(ランタンを掲げる)。明かりには困らないだろう」

ルナ：「いや～皆さん頼もしいですねえ～」ほわほわ

アーシィ：「お前も行くんだぞ？」

ルナ：「まっかせてください！さっきのおくれ取り戻しますよ～！」(おー！

リュウファン：「今度は、忘れ物しないようにね、**ルナ**さん」につこり

ヴァン：(プレイヤー発言) この海賊団に入ったら、みんなこうなって仕舞うのだろうか？入団考え直そうかな…

リュウファン：(プレイヤー発言) びよーきみたいなwww

GM：多分、良識派もいるよ…多分 wwwwww

トウズ：(プレイヤー発言) 使い魔になりましょう(提案)

ヴァン：(プレイヤー発言) それは絶対いやw

アル：(プレイヤー発言) **アル**は海賊団に入らないと決意してる

ルナさん効果恐るべし！海賊団メンバー全員お馬鹿認定受けてしまったよ(笑)ホントにエストは良心な
んだらうな～(内心ガッツポーズ)

長:「では、依頼ということで・・・少ないですが、お一人800G でこの仕事をお願いしたいですじゃ・・・」

ヴァン:(プレイヤー発言) 外にもう一人いるからね～

GM:>ヴァン あ、人数はかくしかで伝えているから大丈夫です

トウーズ:「うむ、私は受けることに異論はない。 どうせ宝玉も探さないといけないしな。」

アーシィ:「構わない、私は困っている人は必ず助けるとこの身に誓っているからな！」

リュウファン:「僕も、全然おっけーです！やるきまんまだよ！」

アル:「俺は何も言っていないが・・・ まあ、受けることになるんだらうな・・・」

ルナ:「よーし！そうと決まれば蜚族退治です！張り切っていきましょー」(おー！

アーシィ:「あ、ああ・・・」

リュウファン:「う、うん・・・」

ヴァン:>GM (プレイヤー発言) 合流しますね～？

GM:>ヴァン お願いします！

ヴァン:「こっちは大丈夫だ、毒のことはしっかり伝えておいた。」

リュウファン:「ヴァン兄おつかれさま！」

アーシィ:「ああ、ありがとう。では原因を叩こうか」

アル:「お疲れだ」

ヴァン:「あ・・・ああ、そっちはどうだった？」兄・・・照れるな。

トウーズ:「話はつけた、問題はない」 洞窟につくとどんな感じですかね、見張りとかは・・・

リュウファン:「報酬は一人800G だって！洞窟は結構暗いみたい・・・」

ヴァン:「そうか、まあ行ってみよう。」

ルナ:「う～っ！やる気出てきました～！先に行きますねえええ・・・」ぴゅーん

リュウファン:「えっ、ちょっ！」Σ

アーシィ:「こら！もう・・・」

ヴァン:「こういう作戦なのか・・・？」

トウーズ:スネアッ!

GM:ほい抵抗17

リュウファン:www

アーシィ:なん・・・だと・・・

トウーズ:(プレイヤー発言) じゃあ冗談です

GM:はいな ww

トウーズ:もとい MP 的に無駄うちできない現状だったぜ！

ヴァン:(プレイヤー発言) こいつら。。。どうやってこのレベルまで生き延びた？

ルナさん驚異の抵抗力！その実力は後書きで明らかに・・・。

アル:「・・・ 俺、あいつ見殺しでいいか？」

ヴァン:「大丈夫、ペンティーアも彼女のこと覚えてないだろ、きっと。」

長:「…洞窟へは、ここを出たら左に曲がってまっすぐ10分ですじゃ」ため息

GM:では、ルナの事は無視して、回復とか使いたければ今の内にどうぞ！

このフェイズで、MPを消費していたトゥーズが、アーシィに魔香草を焚いてもらう事に。

アーシィ:R0C13+5 合計:6 <[2_4]>=<1>+5

トゥーズ:ありがとうございます！クククンカして18まで回復。

リュウファン:クククンカ(*´ェ`*)

アーシィ:完全に野うさぎじゃないですか…

リュウファン:(トゥーズさん…すごいカワイイ…)じっと見つめながら

トゥーズ:草差し出されて鼻でククン…いかんほんとにただのウサギだw

GM:今度ニンジンをあたえてみよう

トゥーズ:ぬお一人族としての尊厳は一！

アル:そんなものはなかった

GM:では洞窟入り口。皆が辿り着くと、壁にもたれかかっているルナを発見しました。

ルナ:「ぜー…はー…走りすぎました…あゝ一気持ち悪い…」

アーシィ:「まったく、何をしているんだ…」

リュウファン:「全く…もう少し落ち着いてください…ボクより年上なのに…」

ヴァン:(プレイヤー発言) 何歳なの？

GM:花も恥じらう117歳

リュウファン:wwwww

アーシィ:…

アル:…

トゥーズ:あらおわか…くない

ヴァン:(プレイヤー発言) まあ、エルフですから…

アーシィ:う…うん。。

ルナ:「う～なんのこれしき！(ウイスポーヒーリング)よし！これでおっけい！です！」

アル:「ガキじゃねえんだから。落ち着け」

ヴァン:「短気なんだか暢気なんだか…」

リュウファン:(絶対この子ネジ飛んでるよ…)

アーシィ:「あまり無茶しすぎないようにな？」

ルナ:「えへへ、ありがとうございます…さ、行きましょう！」おー！

正直、ルナさんを喋らせてる時はめちゃめちゃ楽しい…。この手の明るいキャラは場が盛り上がっていいですね～♪…え？盛り上がってるのはルナさんだけって？何のことやら(ピョッ
さあ！メインイベント！洞窟内部いってみましょう！

・蜜族の野望を食い止めろ！

GM: てなわけでマップ出します。ちょっと待ってね



ダンジョンマップはこんな感じ。下の広間が入り口です。

PL さん達には序盤は見えないように処理をして、徐々に全体を明かしていく様にしました。

ヴァン: (暗視持っているだろうし、斥候はルナに任してもいいかな...) などと考えつつ。

トゥーズ: 了解です。ではその間に油と火打ち石を使用してランタンをとす宣言を。

ヴァン: 「ありがとう、助かる。」

アル: 「これなら、ある程度は見えるな」

トゥーズ: 「なにより私も見えないからな。それに手に持つものをなにも装備していないからな」

リュウファン: 「ボクも暗視あるから出来るだけみんなの前歩くようにするよ」

アーシィ: (こいつは私が守らなくてはな...) と考える

GM: へいお待ち。皆がいるのは、この水色のポーンの位置です。今回は探索ミッション。慎重に進もうね

GM: 誰が先頭で進みますかな？

トゥーズ: 慎重に筋力の高い人に取り押さえてもらいつつ進むのですよ！

リュウファン: じゃあ、私かな？？奥に何か居ないか目をこらして見るよ

ヴァン: (プレイヤー発言) ルナさんが居るのに？w

GM: ルナさん...スカウト無いけど大丈夫？

ヴァン: いや、先頭じゃなくってです

アーシィ: ルナ「よーし、蜜族の野望打ち碎きますよおおお...」ぴゅ〜っ...みたいなwww

GM: まあ、ルナに任せるなら「ひゃっほーっ」って行って進みますが

リュウファン: wwwwww

アル: ルナを囷にして探索進めようぜ

ヴァン: (プレイヤー発言) 慎重に探索が可能なのかな？とw

GM: 知力って...頭の良さとおつむの悪さを分かつ者だと思うんですよ www

アーシィ: じゃあリュウの横ですかね、スカウトないけど...

トゥーズ: 私は列の真ん中にいよう。灯り持ちだし

リュウファン: 「暗視とスカウト一応あるのでボクが先頭にたちますね！」

ヴァン: 「頼む、気をつけてな。」

アーシィ: 「無茶だけはするなよ、リュウ...」

リュウファン: 「うん！気をつけるよ！」(ちょっと怖いけど...)

GM: ほい了解です

トウーズ:頼れる最年少だぜ！

GM:では、リュウファンが目をこらすと、この位置まで見えますね(最初の分かれ道まで)

GM:道は分かれているみたい

リュウファン:「ちょうど、先の方に別れている道がみえるよ！北と東に一本ずつ・・・」

GM:さて、どう進むかな？

アーシィ:ゆっくり警戒しながら慎重に進む！

GM:ほいほい。(ポーンを分岐点まで移動)では、東と北、どちらに進みましょ

アーシィ:・・・大丈夫・・・だよな・・・？

GM:うん、何みなさそうですね

リュウファン:もう一回目をこらして見てみる！とりあえず、東で(*・ω・)

GM:了解。では・・・ここまで見えた。扉があるね(灰色の部屋部分表示)

リュウファン:「東のほうには、扉がある、何かの部屋みたい・・・？」

アーシィ:「扉か・・・何か道具でもあるのか・・・？」

GM:さあ、部屋に入ってみるかな？

リュウファン:扉に、仕掛けとかはないですか？？

ヴァン:その前に足跡を探索していいですか？

GM:ほほう！面白いですな！どうぞ！

GM:【足跡追跡判定】(スカウト or レンジャーLv+知力B+2D)

ヴァン:2D6+4 合計:11 <3,4>+4 微妙だ・・・

GM:ふむ・・・その場合は。蛮族のものと思われる足跡が、北に延びているね
東には無い。

アーシィ:じゃあ北か・・・？扉は後ででも

トウーズ:北に急ぐか東に寄るか・・・って感じですかね？

ヴァン:「蛮族は北か・・・普段通らないところなら、罠には気をつけないとな。」

リュウファン:「じゃあ北に向かう？？」

ヴァン:「打ち漏らしがあっても困るし、扉からでいいんじゃないかな？」

アーシィ:「ああ、それでいいか」

リュウファン:じゃあ、部屋の中にたいして聞き耳します(´・ω・´)

GM:ほいほい

GM:【聞き耳判定】(スカウト or レンジャーLv+知力B+2D)

ヴァン:聞き耳は自分もしますね

ヴァン:2D6+4 合計:6 <1,1>+4 らき～

トウーズ:おめでとうございます

リュウファン:2D6+3 合計:12 <5,4>+3

GM:ふむ・・・全員聞き耳をしたけど、特に物音や声はしないね

リュウファン:扉には、カギかなにかついてたりしますか？(´・ω・`)

GM:ないよ～

リュウファン:(プレイヤー発言) わかりました(*・ω・)

リュウファン:「どうしましょう、とりあえず入ってみますか？？」

ヴァン:「まず、罨がないか見ておいてくれ。」

リュウファン:では調べてみます！！

GM:どぞ！

GM:【罨感知判定】(スカウト or レンジャーLv+知力B+2D)

リュウファン:2D6+3 合計:11 <4,4>+3

GM:罨はないと思った！

リュウファン:「罨はないと…思います！！！」

ヴァン:「じゃあ、入ってみようか」

リュウファン:慎重に扉を開けてなかに入ります

トゥーズ:ガチャリと

GM:ではお部屋に移動

リュウファン:どんな感じですか？

GM:お部屋には誰も無く、罨なども見あたらない。

がらくたがいっぱいあるが、役立つものが、さがせばあるかも…？

ヴァン:(プレイヤー発言) この部屋は自然に出来た感じではないですね？

GM:うん、この辺は人の手が加えられてますね

ヴァン:「先に進もうか？」

GM:なにもしないかな？

トゥーズ:「なにか地図でもあればいいが…」ごそごと探索判定してみてください？

GM:【探索判定】(スカウト or レンジャー or ミスティック Lv+知力B+2d

一同:(ころころ…)

GM:おお！高いな……

ヴァン:「何か役に立つものがあるかな…？」

アーシィ:「うーん、わからないな…」

リュウファン:「ボクは何も持ってないです…」

GM:では皆は、ヒーリングポーション2個と、魔香水を手に入れた！

ヴァン:(プレイヤー発言) これって、里のもののじゃないのかな？

GM:里の管理品みたいだね

ヴァン:(プレイヤー発言) そうなら、ヴァンは見つけても伝えません。

ヴァン:「何もないようだ…」

アーシィ:「そうか、じゃあ戻るか」

GM:ヴァンはスマートやなあ…

リュウファン:「ただの物置だったのかなあ～」

ヴァン:「ああ、蛮族だけは見落とさないようにしないとな。」

実はこのアイテム、GMとしては持って行ってもらいたかった一品。蛮族追っ払ったら銭別って感じでも良かったんだけど…良識はPTですな(ホロリ

GM:んでは、元の道に戻りますかな？

ヴァン:もどりませう～

GM:ほいほい。

リュウファン:北を見ってみよ！

GM:んでは、ここまで見えますな。(更に分岐まで公開)

GM:道が東、西、北に延びている。

GM:西の方からは、薄くはあるが、なにやら濁った水が流れてきている・・・

アーシィ:足跡は？

リュウファン:「なんだろう・・・この水・・・毒・・・？」

ヴァン:「毒かもな。先に西を見てみよう。」

トウズ:毒の危険度とか薬品学判定でふっていいです？

リュウファン:足跡判定もしておくね！

GM:ほいほい！どっちもおっけい

ヴァン:>トウズ おお～任せました！

リュウファン:2D6+3 合計:7 <3,1>+3

トウズ:2D6+6 合計:14 <3,5>+6

アーシィ:>トウズ 協力しますです！（薬品）

トウズ:では失礼して 薬品学で

ヴァン:足跡だけ

ヴァン:2D6+4 合計:13 <4,5>+4

アーシィ:2D6+4 合計:11 <1,6>+4

GM:足跡は、西の方に伸びている。

トウズ:「ペロっ・・・これは青酸カリ！」

リュウファン:Ω Ω Ω< な、なんだってー!!

ヴァン:「なめて大丈夫か？！」

アーシィ:>トウズ 「こら！なめるな！」

GM:トウズにはそれが毒だと分かる・・・あ、舐めちゃった？

トウズ:やばい毒なら危機感知で飲む前に辞めますぜ！

ヴァン:(プレイヤー発言)「ペロっ」て言っただけですねw

ヴァン:(プレイヤー発言) テヘペロ？

リュウファン:(プレイヤー発言) てへぺろwww

トウズ:カリッ・・・これは青酸ペロ！

リュウファン:(プレイヤー発言) wwwwww

GM:皆面白すぎる wwwwww

GM:ん～じゃあ達成値7で精神力抵抗判定。(思いつきり飲んでたら10でしたピョッ

トウズ:2D6+5 合計:14 <3,6>+5

GM:ほい、ではトウズさん・・・セーフ！

アーシィ:>トウズ 「まったく・・・ひやひやさせて・・・」

ヴァン:「とりあえず、問題の毒を止めないと。」

リュウファン:でわ、慎重に西に向かいます

トウズ:舐めてみたけど・・・どういものかわかります？

GM:はい。トウズには、毒の性質がわかりますよ？

トウズ:おおー

GM:蛮族の毒

「そちらの通路を通過する場合、達成値10の精神力抵抗判定。失敗すると30分全ての判定に－1」

リュウファン:「トウズさんすごいな・・・かわいいな・・・」

トウズ:「称赞はうれしいのだが・・・むう、かわいいはムズ痒いな・・・」

と、ここで、時間も遅いせいもあってアルが都合上離脱。・・・ん～、もうちょい GM の時間管理が成っていれば・・・これも今後の課題だ・・・ゴメンね、アル(涙)

ヴァン:すると、全員抵抗判定いりますね？

GM:北に進むなら、毒は流れてきてないですよ～

ヴァン:(プレイヤー発言) 毒を断たないとだめなはずですね。危険でも西へ向かうしかないかな？

アーシィ:(プレイヤー発言) その気になれば私は余裕で通れるが・・・ほかの人が・・・うーん・・・

リュウファン:(プレイヤー発言) そうですね(*ω*)

ヴァン:「足跡もあるし一人では危険だろう、みんなで行こう。」

アーシィ:「そうだな、身の安全が最優先だ」

GM:・・・ルナさん抵抗できるかな(ホッ)

リュウファン:・・・あw

ヴァン:>GM さっきは無茶苦茶高かったじゃないですか？w

リュウファン:17ww

GM:はっはっは www1ゾロ出すかもよ？

トウズ:(プレイヤー発言) 毒を流しているもとにまでたどり着ければ西じゃなくても・・・？

ヴァン:(プレイヤー発言) >トウズ けど、西から流れてきているようですよ。

リュウファン:(プレイヤー発言) とりあえず、私とアーシィさんで様子みてきてもいいですよ！

ヴァン:(プレイヤー発言) どこかと繋がっているかもしれないかな・・・

トウズ:(プレイヤー発言) あ、西が元か！

アーシィ:(プレイヤー発言) ついでにルナも連れていこうぜwww

GM:んじゃ西をみにいくかな？

ヴァン:行きましょう。多分抵抗できるはず。

GM:ほい。では先に精神抵抗いってみよう

一同:(ころころ・・・)抵抗成功

GM:2D6+11 合計:19 <5,3>+11

GM:ルナさん余裕でセーフだった

ヴァン:(プレイヤー発言) もう、ルナさんの上を歩いてもいい気がしてくる・・・

ルナ:「これくらいど～ってことないです！にやはははは」フンス

リュウファン:2D6+8 合計:20 <6,6>+8

アーシィ:(プレイヤー発言) これはひどいwww

ヴァン:(プレイヤー発言) それ以上もいた?!

リュウファン:(プレイヤー発言) どうぞうえ歩いてください(´;ε;`)

ルナさんまさかの敗北(爆笑)シャドウの抵抗はさすがやでえ・・・。

GM:西にいくと、壁に突き当たる。そこにはスイッチがあるみたいだね

ヴァン:(プレイヤー発言) 水はどこから?

リュウファン:「これ、ナンのスイッチでしょう??」

アーシィ:「押してみるか?」

GM:水は、通路とは別の水路から伸びています。入れそうにはないですね

ヴァン:「核心だね、罠は調べておこう。」

GM:スイッチ押しますか?

リュウファン:でわさきに罠かんちします!

GM:どぞ～

リュウファン:2D6+3 合計:11 <4,4>+3

ヴァン:(プレイヤー発言) 10分使うけど、ここで焦ってもしょうがない・・・

GM:ううむ、ばれたか・・・

リュウファン:「ぶーびーとらっぷカ!!」

ヴァン:「お、良く見つけたな!」

GM:罠を調べていると、リュウファンは天井がいやに高いことに気がつく

アーシィ:「偉いぞ、リュウ」

リュウファン:「天井おちてきたりして・・・ね・・・」

GM:ランタンを当てて見ると、そこにはでっかい石の球が吊されていた!

リュウファン:「あはは、ありがとう」///

ヴァン:「これは、危なかったな。スイッチと連動かな?」

アーシィ:(プレイヤー発言) 完全にインディですね・・・

リュウファン:(プレイヤー発言) そのうちクリスタルスカルも・・・

リュウファン:「おさないほうがいいことだけは、確かみたいですわね!」

ヴァン:(プレイヤー発言) ちなみに、玉が転がるぐらい東に下がっていますか?

GM:うん、通路はなだらかな下り坂です♪

トウーズ:「とりあえず他は何もないようだな・・・さて、毒の危険性もわかったものだ、先を急ぐとしよう」

ヴァン:「そうしよう」

アーシィ:「早く止めなくてはな」

GM:(やりたかったんだけどなあ・・・イン〇ィごっこ では、通路もどって中央!)

誰か、上手い罠の仕掛け方教えて・・・(涙)

リュウファン:分岐点から東と北を見してみるよ

GM:ここまで見えるね!(それぞれ曲がり角まで公開)

ヴァン:(プレイヤー発言) 両方同じほうへ・・・だね

リュウファン:「東から北、と北から東・・・どっちも同じところにいってるように見えるね？」

ヴァン:「つまりどっちでもいいってことだ♪」

リュウファン:足跡はどちらもなしですか？

アーシィ:「とりあえず、北か？」

ヴァン:「よし、北へ～」

GM:ほいほい。んでは・・・ここまで移動(北の分かれ道まで移動)

ヴァン:東のほうはどうなっているかな？

GM:こんな感じだね～(突き当たりのドアを公開)

ヴァン:「ナンダこの扉は・・・？」

アーシィ:「こっちにも道があるぞ・・・？」

GM:この扉は、締め切りになっているみたいだね。これが、水の流れをせき止めているみたい

リュウファン:解錠はできないかんじですか？

トゥーズ:破壊も無理そうでいいですよ

GM:むずかしそうですね～

ヴァン:(プレイヤー発言) 水を流す前に毒を何とかしておいたほうがいいのかも

ヴァン:「迂回して、まずは全容を把握したほうがいいかな。」

トゥーズ:さっきの十字路から・・・ということですか？

ヴァン:(プレイヤー発言) うん、東に行って北へ。同じ部屋には着くようだし。

アーシィ:(プレイヤー発言) では行ってみよう

GM:んでは一旦もどるのかな？

アーシィ:はい

ヴァン:ですね、十字路まで戻って、東、北で

GM:ほい。ではなににもなく進めるね

トゥーズ:戻って東を道なりに・・・

GM:迂回していくと、大きな広間に出ました

ヴァン:(プレイヤー発言) 何があるかな～？

GM:そこには大きな機械と、蛮族がいますね！

ヴァン:「なんだあれは？！」

蛮族:「ちっ、見つかったか・・・(交易共通語)」

アーシィ:「貴様が毒を流しているのか！」

リュウファン:「その機械は・・・？」

蛮族:「そういう事よ・・・こうなっちゃったら仕方ねえ！星雲石だけでも！」

ヴァン:「させるか！」

GM:うがはやいが、蛮族は奥の通路に逃げちゃいます。

ヴァン:(プレイヤー発言) させてしまったw

アーシィ:>トゥーズ 今こそあれを！

トゥーズ:やって・・・いいのだろうか・・・

アーシィ:やっちゃえー！

GM:おけい

ヴァン:強制イベントっぽいんですけど？w

GM:大丈夫だ問題ないない！

トウーズ:は、はい。…じゃ、じゃあ…

ヴァン:(プレイヤー発言) できるのか…それなら斧も投げますよw

ルナ:「私も攻撃しちゃいますよ〜！」

トウーズ:斧のほうがカッコ良さそうなのでお願いします！

GM:回避14！抵抗も14！

ヴァン:いえ、先に転ばしてくれたほうが？…って回避高？！

トウーズ:なるほど…ではスネアで

トウーズ:2D6+6 合計:13 <2,5>+6

アーシィ:なん…だと…！

GM:>ヴァン 斧投げる〜？

ヴァン:(プレイヤー発言) 一本投げてみる！

ヴァン:「おやあ！」

ヴァン:2D6+6 合計:13 <2,5>+6

ヴァン:(プレイヤー発言) 変転も切れない7！

トウーズ:(プレイヤー発言) >ヴァン ナカマ！

GM:おいしい！寸前ではずれた！

アーシィ:(プレイヤー発言) 追うしかないのか…？

ルナ:「私も攻撃です！ファイアストーム！」

ルナ:「あ、外した」

リュウファン:「デスヨネー」

ヴァン:(プレイヤー発言) 機械は見逃してくれるのだろうか…？

アーシィ:「…」

GM:ルナの放った妖精魔法は、機械に当たり……

GM:ドッカ——————ン！大☆爆☆発

ルナ:「あわわ…やりすぎました」

ヴァン:「よし、じゃあ追うぞ。」

トウーズ:「…けがの功名という単語がどこかの国の言葉になったな…」

アーシィ:「待て、貴様あ！」駆け出す

ルナ:「私、この辺りの毒とか機械とか調べておきますね！蛮族をお願いします！」

ヴァン:「おう、後は任せろ！」

トウーズ:「うむ、まかされよう」

リュウファン:「あまりいじらないようにしてくださいね」

トウーズ:(プレイヤー発言) 制御と誘導持っていないから誤射巻き込み乱発とかいう落ちは勘弁してほしいですし

というわけで、仮に蛮族がこけてもこのルナさんのドジで逃げられる様にしてみたいり…ルナさん、貴女が役に立つ日はいつ来るの？(笑)

GM:では皆さんは、奥の通路へ。すると、大きな扉の前にやってきました。

ヴァン:(プレイヤー発言) 蛮族はいますか？

GM:どうやら扉の中に逃げたみたいですね

リュウファン:扉はすぐ開きそうですか？

GM:そして扉の前には、六本の棒と、共通交易語で書かれた石碑があります。
すぐには入れそうにないですね。

トゥーズ:なんて書かれてますかね…

GM:「この奥に進む者、我に知恵を見せよ。六つの剣を束ね、四つの炎を作り出せ」

GM:石碑にはこう書かれているね

ヴァン:「さっきの蛮族は一瞬でクリアしたと言うのか？」

GM:蛮族さんは、入念にここを調べていたらしく、あっさり入っていききました

アーシィ:「くそ…さっぱりだ…」

トゥーズ:開いてたのを閉ざしていったとか…

ヴァン:「つまり、分かれば簡単に開くということか…」

GM:続きで「知恵を追い求めよ。運命を変える力を見せれば、我は道を示そう」と書いてある

GM:要は、見識判定してみようってことだね

トゥーズ:ふむ、では見識をひとつ。達成値に応じてヒントをだすよ

一同:(ころころ…)

トゥーズ:2D6+6 合計:14 <2,6>+6

GM:おおう、トゥーズさすがやなあ…全部開示だ

トゥーズ:やったあ

アーシィ:さすがです！

リュウファン:すごい(*・ω・)

ヴァン:(プレイヤー発言) 頼りになるなあ

GM:ヒントは3つ

「剣とは棒の事。6本の棒をつかって三角を四つ作れ」

「この棒を折ったり曲げたりしてはいけない。それをやった者は扉をくぐれない」

「平面のみで考えるな。立体的に物事を捉えろ」

ヴァン:(プレイヤー発言) よし、ここは任せたw

アーシィ:俺わかった！

リュウファン:ぼくも、わかりました～w

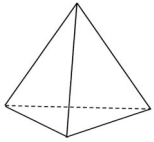
トゥーズ:「三角錐を作れということか…？」

GM:>トゥーズ 正解出しちゃったね wwwwww

トゥーズ:(プレイヤー発言) おうふ、あってましたか

GM:ほい、てなわけで、三角錐を作れば正解でした

GM:では、扉は音を立てて開きます！



ちなみにこのクイズの答えは、図に表すとこんな感じ！

ホントはホワイトボードに書き込んでもらおうと思ったんだけど・・・

PLさんはホワイトボードに書き込み不可と気付かず総ツツコミを受けたのは内緒(滝汗)

・対決！ポリョック再び！

GM:では、扉を開いた皆は祭壇の様な場所に出ます！

そこでは、宝石の様な物を盗もうとするさっきの蜜族が！

リュウファン:「やっと、追いつきましたね・・・」

アーシィ:「そこまでだ！」

ヴァン:「そして、追い詰めたな」

トゥーズ:「面倒な仕掛けの部屋まで逃げ込んでくれたものだな」

蜜族:「なっ！？お前等もう来やがったのか・・・早すぎる！俺がああ謎を解くのにどれだけかかったと・・・」

ヴァン:「そうか・・・イロイロと残念だったな。」

リュウファン:「蜜族のおつむとは出来が違いますよ・・・！」

蜜族:「ええい！貴様等を倒せば同じ事だ！ゼツタイに儀式はやらせんぞ！」

GM:てなわけで、ボス戦いってみよう！

アーシィ:「貴様の苦勞も、ここで終わらせてやる！」

トゥーズ:イエイツ！

GM:相手は一体！魔物知識の達成値は 13/16 だよ

トゥーズ:なにとはともあれ魔物知識を！

一同:(ころころ・・・)失敗・・・

トゥーズ:2D6+6 合計:8 <1,1>+6

トゥーズ:ぶっほう！

ヴァン:な？頼みのトゥーズさんが？

トゥーズ:1 ゾロおいしいです^p^

ヴァン:(プレイヤー発言) おめです～

トゥーズ:(プレイヤー発言) もといすいませんでしたあああああ！

アーシィ:ぜんぜんおいしくないよ！

ちなみに読者の皆さんも混乱しない様に説明すると、蜜族の正体はギルマン！まあ、雑魚がサハギンだったから分かりやすいかな？ちなみに欠片3個入りです。

GM:で一はではめげずに先制判定行ってみよう！ちなみに13ね

一同:(ころころ・・・)成功

GM:皆の先制だよ！

ヴァン:では、斧は片手で攻撃！

GM:ほい回避14！

ヴァン:2D6+6 合計:11 <3,2>+6

GM:回避！

トゥーズ:ファイアボルトで先に少しでも削ります！

GM:抵抗14

トゥーズ:2D6+6 合計:9 <2,1>+6

GM:抵抗～

トゥーズ:さっきからひくいなあ

トゥーズ:R10C13+6 合計:13 <[6_6]> = <7>+6 それでも7点はもぐ！

GM:7点もらうよ

ヴァン:(プレイヤー発言) あれ？デジャヴ？？

GM:そんな気がしますね～WW お次どぞ？

リュウファン:でわいきます！1回目！

リュウファン:2D6+4 合計:11 <1,6>+4

リュウファン:2D6+4 合計:9 <4,1>+4

GM:よけたー！

リュウファン:「うう・・・武器の扱い、ヘタなのかな・・・」

アーシィ:ではかばうをリュウ(一応)に、補助で虫、主で攻撃！

アーシィ:2D6+5 合計:10 <3,2>+5

GM:よけたね

アーシィ:「くっ・・・やる！」

この時、ギルマンの回避の高さに正直焦る GM。難易度高すぎたかな・・・？

GM:ではこちらの手番！

ヴァン:どんとこい！

GM:リュウに攻撃～。命中14ね

アーシィ:かばったほうがいい？

ヴァン:(プレイヤー発言) うぐ、やばい？

リュウファン:2D6+6 合計:13 <3,4>+6

GM:命中。かばってもらう？

リュウファン:かばってもらいます(;・`Д・´)

アーシィ:よし・・・！

GM:ではダメージはアーシィに

リュウファン:「アーシィ姉、お願いします！」

アーシィ:「やらせん！」

GM:2D6+7 合計:13 <2,4>+7

アーシィ:4点・・・まずいな・・・

ヴァン:(プレイヤー発言) 積み重なるとヤバイナ...

ヴァン:「さっさと片付けたほうが良さそうだ。」

蛮族:「ふん、他愛もない！もっと打ち込んでこい！」皆さんの手番だよ～

ヴァン:「じゃあ、そろそろ本気で行くぞ！」

ヴァン:片手で～

ヴァン:2D6+6 合計:9 <1,2>+6

ヴァン:変転

GM:おけ！

ヴァン:R12C10+6 合計:7 <[2_1]> = <1>+6

ヴァン:(プレイヤー発言) ダメだこりゃw

GM:4点もらうよ

トウズ:うごう...

アーシィ:これ...やばいな...

ヴァン:(プレイヤー発言) そうかな？大丈夫だよ～

アーシィ:いや...うん...

リュウファン:でわいきますね！

GM:ほい！

リュウファン:1回目！

リュウファン:2D6+4 合計:16 <6,6>+4

トウズ:おおー

ヴァン:きた！

リュウファン:R10C9+5 合計:8 <[2_4]> = <3>+5

GM:5点もらった！

リュウファン:2回目！

リュウファン:2D6+4 合計:9 <4,1>+4

GM:こっちはよけたね

アーシィ:では

アーシィ:2D6+5 合計:16 <5,6>+5

GM:命中！

ヴァン:きたきた～

アーシィ:R21C11+5 合計:9 <[2_4]> = <4>+5

ヴァン:「よし！押してる！」

アーシィ:「ふっ...」 あ、かばうわすれた...

リュウファン:(プレイヤー発言) だ、だいぢょうぶです！w

GM:6点もらった。

トウズ:8以上なら抜けるんだ！もっかいファイアボルト！

トウズ:2D6+6 合計:15 <3,6>+6

トウズ:やったあ！

ヴァン:>トウズ よっしゃ！

トウズ: R10C10+6 合計: 10 <[3_5]> = <4>+6

アーシィ: いいぞー！

GM: 10点もらった！

トウズ: でも残り MP7、次ぎ撃ったら打ち止めだなあ・・・終了です

蛮族: 「ぐうっ！ 押されている！？ ポリョクの行動隊長の俺が・・・？」

ヴァン: 「おや？ ポリョクの層もそれほど厚くないようだな？」w

GM: ではこちらだね～。アーシィに攻撃だ！

アーシィ: 2D6+4 合計: 9 <4,1>+4

GM: 2D6+7 合計: 13 <4,2>+7

GM: またまた13点物理ダメ

ヴァン: (プレイヤー発言) 6ゾロとか振られるときつそうだな・・・

アーシィ: (プレイヤー発言) 大丈夫、その前に終わらず、絶対に

GM: 皆の手番だよ～

ヴァン: 片手で！

ヴァン: 2D6+6 合計: 11 <1,4>+6

ヴァン: (プレイヤー発言) うん、ダイスがしけってる。任せた～

リュウファン: つぎいきます！ 1回目！

リュウファン: 2D6+4 合計: 12 <5,3>+4

GM: よけるな～

リュウファン: 2回目！

リュウファン: 2D6+4 合計: 12 <4,4>+4

GM: おしいぞ～お次かもん！

アーシィ: 気合だあー！ いくぞおー！ かばうをリュウに、主で攻撃ー！

アーシィ: 2D6+5 合計: 10 <4,1>+5 くそう・・・！

トウズ: ううむ・・・こちらの回復魔法は範囲のと回復する人の手番も消費してしまうんですね

GM: だねえ。

アーシィ: 回復はいいから、攻撃しましょう！

ヴァン: (プレイヤー発言) 押し切ってみましょうかね？

トウズ: 分かりました。最後のファイアボルトで少しでもダメージを！

トウズ: 2D6+6 合計: 16 <6,4>+6

GM: かもーん！ 抜いたよ！

ヴァン: >トウズ かっこい～！

トウズ: R10C10+6 合計: 15 <[6_5],[6_1]> = <6,3>+6

トウズ: いってくれ！ 頼む！

GM: これは・・・

蛮族: 「ぐおおおおおっ・・・」ぶずぶず

ヴァン: (プレイヤー発言) 見た目に分かる有効打！

GM: バタン！ 盛大にひっくり返りました！ てなわけに撃破です！

リュウファン: 「す、すごい・・・！ これが・・・トウズさんの本気」

トウズ: やったー！

アーシィ: (プレイヤー発言) 上手にやけた！

ヴァン: 「なんだ、意外とあつけなかったな・・・。」

アーシィ: 「ありがとう、助かったよ」

トウズ: 「自然を犯した罰だ」フェアリーティマーだし

トウズ: 「いや、こちらこそ。皆がいるから私は魔法が打てるのだ」

GM: てなわけで、剥ぎ取っちゃおう！

ヴァン: >トウズ 剥ぎ取りどうぞ～

トウズ: あ、はぎとりいただきます

トウズ: 2D6 合計: 4 <3,1>

トウズ: ここでひくいのー！

ヴァン: (プレイヤー発言) 結局なんだったのかな？

GM: 敵はギルマン(欠片三個入り)でした

GM: 報酬追加しましたよ～

ヴァン: 「はい、救命草。」一つ渡します。

アーシィ: 「ああ・・・ありがとう・・・」

アーシィ: R10C13+5 合計: 7 <[1_4]> = <2>+5

アーシィ: 「あとは村などで手当てすれば、問題ないだろう」

リュウファン: 「アーシィ姉、ボクの事何回もかばってくれてありがとう」

アーシィ: >リュウファン 「いや、礼には及ばないよ。私の覚悟だからな」

いやー、回避の高い敵って強いんだなあ・・・ここだけの話、膠着状態が続くようならルナさん参戦も辞さない勢いでした・・・さてさて！この後はエピローグ！

・水星雲の儀式

GM: ギルマンを倒し、盗まれそうになっていた星雲石を取り戻した皆。

洞窟内の毒は、ルナさんがピュリフィケーションで浄化してくれました！

ルナ: 「私が本気をだせばざっとこんなもんです」えっへん！

ヴァン: 「何とか、任務完了だな。」

リュウファン: 「なんだか、急につかれてきちゃった・・・」目をこする

アーシィ: 「宝石忘れるとかなければなあ・・・」

ヴァン: 「これで儀式とやらが見られる。どうせ迎えはまだだろうから見て行こう。

・・・っていうか、迎え来るかな・・・。」

アーシィ: 「なかったら歩いて帰るさ、それも体うごかせるしな」じとー

ヴァン: 「うぐ、、、いや、あれは言い過ぎた。スマン」

リュウファン: 「アーシィ姉、すごい前向き・・・！！」

アーシィ: 「私だって・・・女・・・なんだからな・・・///」

トウズ: 「・・・来るだろう・・・来ることを儀式に交じって祈っておこうじゃないか・・・」

GM: 洞窟を出て里に戻ると、長様がお礼を何度も行ってくれる。

そして、水星雲の儀式は、滞りなく行われた。

GM: 洞窟内を照らす、月光。

GM: 星雲石の光で乱反射した光が水面に反射し、洞窟内を星雲で満たします。

ヴァン:「綺麗だな・・・。」

ペンティーア:「おーすっげーすっげー綺麗だな～」エールグビグビ

トゥーズ:「見事なものだ…うおっと？」

リュウファン:「はっ！？ペンティーアさん！！いつのまに・・・」

ヴァン:「な？！来てたのか？」

アーシィ:「・・・ペンティーア殿」

ペンティーア:「今し方よ！様子見に来たら、面白いことやってるじゃねえか」

リュウファン:「エストも、お疲れ様です」にっこり

ヴァン:「無事なのかな？」

エスト:「はい。・・・ユリウス皇帝の謁見の後、まっすぐダーレスブルグに帰りそうになってましたが」

アーシィ:「・・・ペンティーア殿？」

ヴァン:「エスト・・・あんただけが頼りだよ・・・」

ペンティーア:「はっはっは！細かい事は気にすんな！」

ルナ:「キャプテン！お久しぶりです～」抱きつく

アーシィ:「なっ・・・いきなりそんなこと・・・///」

ヴァン:「恨んではいないんだな・・・」

ペンティーア:「おうルナか。丁度良い」

ヴァン:「（一応覚えてたよ！）」

トゥーズ:「（忘れていたわけではなかったのか・・・」

ルナ:「ふえ？」

ペンティーア:「交代してこい！」ルナと一緒にテレポート

GM: 程なくして、ペンティーアが戻って来ました。・・・コトリと一緒に

コトリ:「・・・あら？」

リュウファン:「あ、酒場のお姉さん・・・」

ヴァン:「あれ？なんで？」

アーシィ:「コトリ殿！？」

トゥーズ:「チェンジで。っていうのだな確か」

コトリ:「えっ？ここ何処ですか？すごく綺麗ですけど・・・え？」

ペンティーア:「こんなイイモン見るときは、コトリの料理と酒に限る。てなわけで作ってこい！」

ヴァン:「……………」

アーシィ:「……はあ、困ったものだ・・・」

コトリ:「え？えええ？」

ヴァン:「まあ、いいか。うまい料理には賛成だ。果報は寝て待て・・・とか言うしな。」

アーシィ:「料理か・・・いいな、食べよう！」

リュウファン:「アーシィ姉、食べ過ぎないようにね！」

アーシィ:「>リュウファン「わかっているよ、まったく・・・」頭をつん

GM:そんなやり取りをしていると、星空のなかに一段と大きな輝きが

トウーズ:「むっ、あれは…」

GM:輝きは皆の足下にゆっくりと降りて、一つの宝玉に姿を変えます。

鑑定判定したい方どうぞ！似たようなの見てるから達成値5

一同:(ころころ…)成功

GM:ほい、皆成功！共有に正体だすよん！

ヴァン:(プレイヤー発言) 違ったらビビルw

【エルフの“知恵”の宝玉】

ラクシアーのお宝に近づく為に必要な宝玉。悠久の時を生きるエルフの、知恵を探求し続ける思慮深き心を宿した玉。

アーシィ:「やった…」

トウーズ:「うむ、当初の目的も無事クリア。 といったところだな」

リュウファン:「これが…宝玉…！！」

ヴァン:「これが何個か集まると、伝説のお宝が見つかるらしい。」

ペンティアー:「そうだ…俺達が夢に近づくための道しるべ…これで二つめだな」

アーシィ:「ああ、そうだな…夢か…ふふ、いいものだな…」

リュウファン:「すごい、すごいです！こんなにキレイなものだったんだね！」

ペンティアー:「いやーイイモン見られるは、手がかりは手にはいるわだ！今日も良い日だ！宴だ！」

GM:キャプテンはすっかり上機嫌！

ヴァン:「腹減った！コトリちゃん、おかわり！」

アーシィ:「コトリ殿、こちらも！」

コトリ:「は、はい！ただ今～～」状況が飲み込めないままアタフタ

トウーズ:「鑑定以上に予測のつくことをいう面々だな。 まったく」(呆れながら笑う)

リュウファン:「あー！二人ばかり、ずるいです！ボクも！！」

ペンティアー:「ようし野郎共！今日も飲むぞ！宴だあ！！」

リュウファン:「おー！飲むぞー！」

アーシィ:「ああ！」

GM:キャプテンの号令の元、星空の中で宴会が始まる。

トウーズ:「Σ(なんかまた気迫が…」

ヴァン:「気楽だな…。しかし宝玉は着実に集まっているから不思議だ。」

GM:夢にまた一歩近づいた冒険者達。次の冒険は、何が待っているのだろうか…。

GM:てなところで！セッション終了！お疲れさまでした～

一同:「お疲れさまでした～！」

GM:ちなみに

(そよ風亭にて)

ルナ:「こ、ここ何処ですかあーっ！？TT」

コウ&マシロ:「・・・お姉さん、誰？」

GM:という事件があったのは内緒だ

ヴァン:不信人物現れる・・・

トゥーズ:内緒にしても帰ればバレますって！

リュウファン:あははw

アーシィ:騎士に通報か・・・

・・・ルナさん、最後までギャグキャラでしたね。よきかなよきかな(笑)

さーてこの後はリザルト&アフタートーク！

・リザルト発表&アフタートーク！

GM:ではリザルト～。

GM:経験点1130点 報酬 2056G 成長一回 名誉点8点

GM:うーん、今回は粗が目立った・・・ホントに申し訳ない ORZ

ぶっちゃけ GM、今回はミスを連発しました。ううう、皆に申し訳ないよう(涙)

ヴァン:まだ2回目でこれなら立派なほうだと思うのですが・・・？

少なくとも自分はここまでできてなかったですよ～

アーシィ:いや、そんなに目だってないと思いますよー

トゥーズ:全く問題ないかと！自分なんてこの前初めて GM やって見ましたがもう眼もあてられないひどさでした！

ヴァン:ペンタコスさんは準備がしっかりできていて、とにかく誠実さを感じます。たいへんですけど頑張ってくださいね。

リュウファン:がんばってください(´ω´)！！

GM:皆の好意が本当に暖かい・・・ありがとね;;

リュウファン:私もご迷惑おかけしました(;´д´)

GM:>リュウファン いえいえ、イイキャラしてたし、しっかり仕事もしましたよ？

リュウファン:ありがとです(;´д´)オンセ初だったので、すごく緊張しました(*´□`*)

GM:いやーギルマンあんなに強いと思わなかったわ～

GM:いやーあのまま戦闘が拮抗しそうだったら、ルナさん乱入も辞さなかった・・・

アーシィ:ギルマン強かったな・・・レベル2 だからか・・・

GM:主に回避14の恐ろしさが半端無い・・・

リュウファン:今日のベストワードはカリッ、青酸ペロですね(´ω´)

アーシィ:wwwww

GM:間違いない WWW

トゥーズ:や、やめましょうあれはもう！過去に葬り去りましょうよ！

GM:あ、こないだの繰り返しになりますが、初めての方もいるので念のため

GM: 今回のセッションも、あらすじやログを WIKI にアップ予定です

トウズ: おおー

ヴァン: 了解です・・・はずかしですねw

アーシィ: カリッ、青酸ペロ・・・！ ができるのかwww

ヴァン: 間違いなくw

しっかり出させていただきました(ニヤリッ

リュウファン: >アーシィ たのしみ～～Ww

アーシィ: www

トウズ: ログの保存されない彼方に葬り去りましょうよー！

GM: 既にGMのPCに保存済みである

アーシィ: 終わったな・・・www

~~~~~

#### ・後書き

はい、というわけで〈ラクシアーのお宝〉第二話「水の行方」第一グループ編、如何だったでしょうか？

前回は街中探索だったので今回は洞窟探検にしてみました・・・あれで良いんでしょうか？(汗)

いや～、ダンジョンマップ作るのって難しいです。まず間取りを考えなきゃいけないわ、罠は考えなきゃいけないわ、アイテムの設置はあるわ・・・。これを上手に考えられる人はホントにすごいと思います。

そしてヴェルダー海賊団の初メンバー登場！

個人的にルナさん大好きです(笑)PC さん達から“お花畑”“お馬鹿”“駄エルフ”等々、数々のお褒めの言葉を頂く好評さ・・・え？褒めてない？いえ、GM にとってはこの上ない褒め言葉です(笑)これからも彼女には笑いの坩堝になってもらいましょう・・・。

さて、順調にお宝に近づく冒険者達。この先はどうなって行きますやら。今回も、参加してくれた皆！アドバイスをくださった諸先輩方！前回のリプレイを読んでもくれた皆様！そして本書をここまで読んでくれたそこのあなた！全てに感謝を！！

ではでは第3話「約束の刃」でお会いしましょう！

平成 25 年 4 月 11 日(木)

「初心者 GM と行く〈ラクシアーのお宝〉シリーズ GM ペンタコス